



ソフトバンクグループ株式会社

2022年3月期 第1四半期 決算説明会

2021年8月10日

登壇

孫：まだ世界で新型コロナの感染が収まらない。ワクチンの接種がだいぶ広がってきましたが、感染はむしろ爆発しているという状況だと思いますので、いろんな意味で気を引き締めていかねばならない、そのような状況ですが、今日は私どもの決算発表をこれから行います。

この新型コロナで、世界中が100年ぶりぐらいの経験をしているわけですが、われわれ情報革命、AI革命の分野においては、直接人と人が会えない中で、オンラインでの仕事だとか、エンターテインメントだとか、さまざまな部分がより加速したのではないかという面もあります。

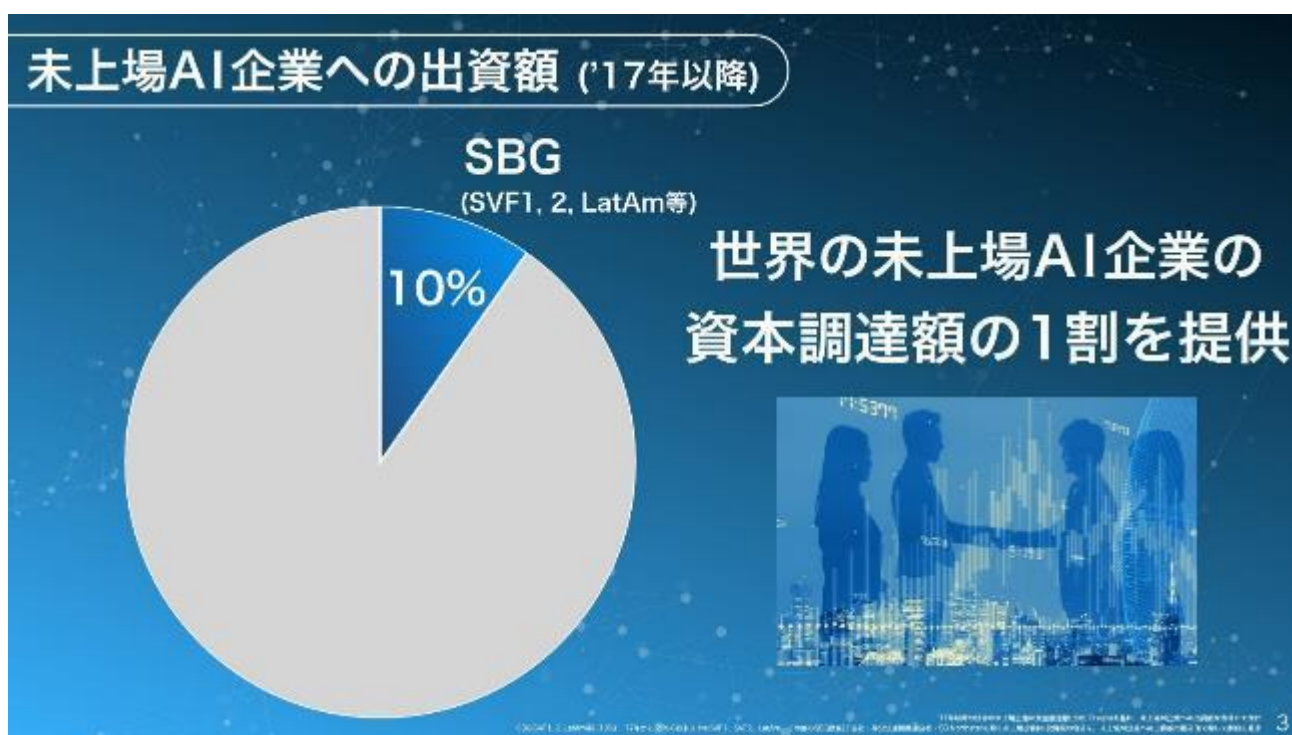
ですから新型コロナが始まった直後、去年の今ごろは大変厳しい状況にありました。しかし、1年を振り返ってみれば、われわれの業界にとっては、進化が加速するという意味では、意味のある1年間だったのではないかなと思います。それでは、早速プレゼンを開始したいと思います。



ちょうど先日、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）の株主総会がありました。その株主総会で、SBGとは一体どんな会社なのか、何の会社なのかと。かつては、事業会社として、携帯事業だとか、その他いろいろやっていたわけです。「事業家としての孫さんは好きだけど、投資家としての孫さんは好きじゃない」というご批判もたくさんいただいた中で、われわれSBGとは一体何なのかということを変更して、われわれ自身問い直してみました。

われわれは投資家ではなく資本家なのだと、先日の株主総会で発表しました。投資家と資本家、私は似て非なるものだと考えています。投資家はあくまでも、お金の利益を求めることが目的であり、正義です。しかし資本家は、革命を起こす。革命を起こすための発明をする発明家がいれば、その発明家とビジョンを共有して、資本的リスクを取るのが資本家だと、われわれは思っています。

そういう意味では、お金を作るというよりも、未来を創る。SBG は、これを事業の目的としているということです。



じゃあ、その SBG が、この AI 革命の中で一体どのくらい資本家として資本を投じているかですが、ソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）を開始してから約 4 年になりました。

2017 年から 4 年間の間に、AI 関連、AI を活用している未上場企業が世界中で資本を調達しましたが、その総額の約 10%をわれわれ SBG が資本家として提供していたことが判明しました。

世界の一つの業界で調達された資本の 10%というのは簡単ですが、この分野において、SBG は間違いなく、世界最大の資本家としての存在になっているんだろうと思います。

2 番、3 番の会社がどのくらいの規模にあるかということ、われわれの何分の 1 であり、われわれはそれらの会社より何倍か大きい資本を投入したということだと思います。いろんな産業がありますが、最近、日本の会社で世界ナンバーワンという会社の数は、だいぶ減ってきたのではないかと思います。そういう中でも、われわれは一つ、こういう特徴を持っていると言えます。

今日の決算発表のプレゼンでは、このページが一番大事なページだと私は思っています。なぜなら AI 革命は、これから 10 年、20 年の社会の中で、100%必ず大きくなると信じて、いや確信しています。

今から 25 年ぐらい前、ちょうどインターネット業界、インターネット革命が始まったころ、これからインターネット革命は広がるのかという問いをされたならば、間違いなく広がる、100%広がると、私は当時答えたと思います。現にインターネット関連の事業あるいは投資を、そのころから一生懸命やってきたわけです。

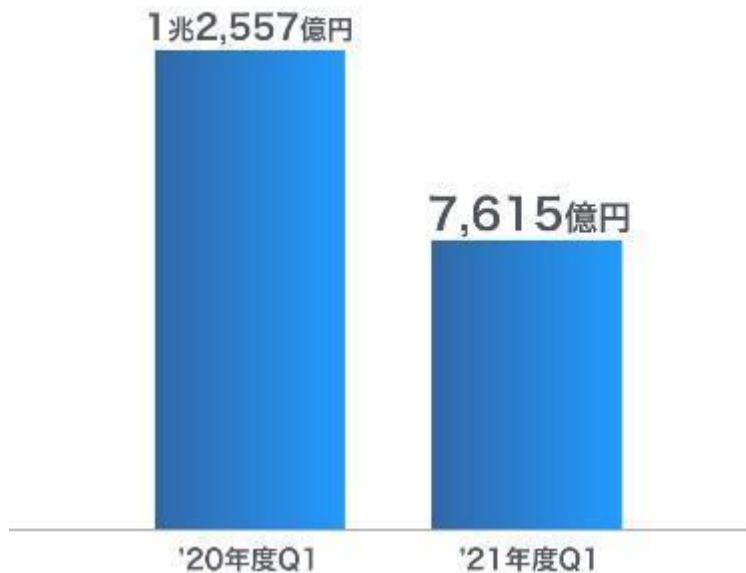
同じ問いとして、今から 10 年間、20 年間、AI を活用する企業がどんどんその企業価値を増やしていくのかと、この AI 革命は広がっていくのかという問いをされれば、もう間違いなく広がる。このように、心から確信を持って私は言えると。

その分野で世界で最も大きく資本リスクをとっている。われわれが投資している会社のほとんどは、まだ利益を出していない企業です。われわれが投資した資本に対しての利益は出ていますよ。われわれは利益出ていますが、その会社 1 社 1 社の業績は、まだ創業して間もない会社がほとんどですから、利益が出ていない。

そういうリスクのあるところに、リスクを承知で、しかし間違いなく広がると確信して、世界で一番リスクを取りにしているのが、資本家としてのわれわれの立場ということです。ちなみに、われわれが投資している会社において、加重平均で見ると約 20%の株主になっています。

世界の AI 企業の中の半分近くに、われわれが投資をしていて、平均して 20%ぐらい株主になっている。結果、世界の AI 企業の資本調達約 10%は、われわれが提供した資本で成り立っているということです。

当期純利益



当期純利益：親会社の所有者に帰属する純利益 5

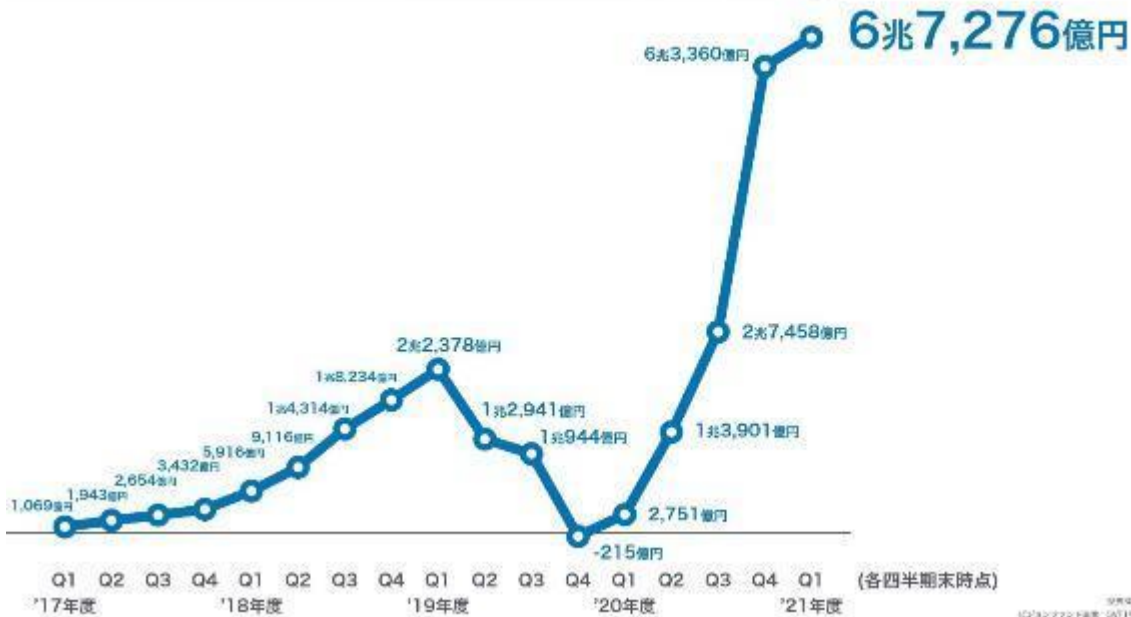
今日は決算発表ですから、業績の詳細に入りたいと思います。

去年の第1四半期は1.2兆円の純利益で、今年の第1四半期は7,600億円でした。大幅な減益なんですが、去年の第1四半期の1.25兆円の中の1.1兆円ほどは、スプリント・Tモバイルの合併に伴う一時益などが入っていました。同じような物差しで、今年の第1四半期はと言いますと、合併後のTモバイル株を保有し、その価値が上がっていますので、その評価益が2,500億ほど含まれています。

ですから去年と今年の両方から、スプリント・Tモバイル関連を差し引くとすれば、去年の1.25兆円から約1.1兆円差し引いて、去年は1,500億円ぐらいの純利益だったことになるんですかね。

今年は7,600億ですが、そこから2,500億円ぐらい差し引くと、5,000億円ぐらいの利益ということです。決算上の数字では、大幅な減益ではありますが、このようなスプリント・Tモバイル関連の一時益を両方の年から差し引くと、それなりの成績であったということです。

ビジョンファンド事業 投資損益 (累計)

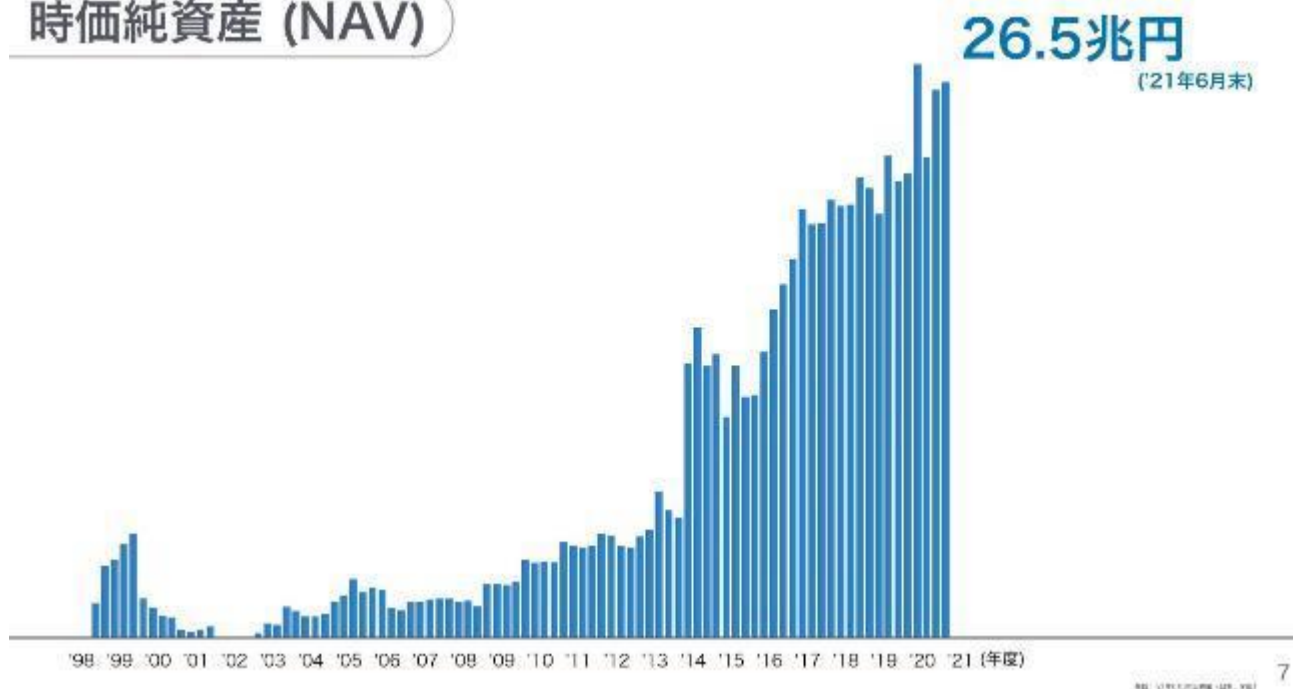


中でも SVF が一番大事なのですが、SVF を累計で見ると、ちょうど今から 1 年ぐらい前のところが、SVF にとっては受難の時期でした。

当時、ウィーワーク問題、そしてウーバーは IPO をしたはいいが、冴えない株価というような問題がありました。そしてコロナ。新型コロナがちょうどヒットし始めるころと、いくつかの要因があって、ちょうど 1 年ちょっと前が、われわれにとっては一番の受難の時期でありました。こういうものは累計して見ていくべきだと思いますが、この 4 年間の累計で見て、SVF の投資損益は、6 兆 7,000 億円ほど利益が出ている。

ですから、SVF が成功しているのかしていないのかと一言で言えば、それなりに順調にいつてるといことです。いろいろデコボコありましたが、累積で見て、それなりに順調にいつているのが、SVF の状況です。

時価純資産 (NAV)



SVF、アリババ、そしてソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）、その他全部含めた、われわれの時価純資産（NAV）。SBG はもはや資本家で事業会社ではありませんから、四半期ごとの純利益は、実はあんまり意味がないと、ここ最近ずっと言っています。

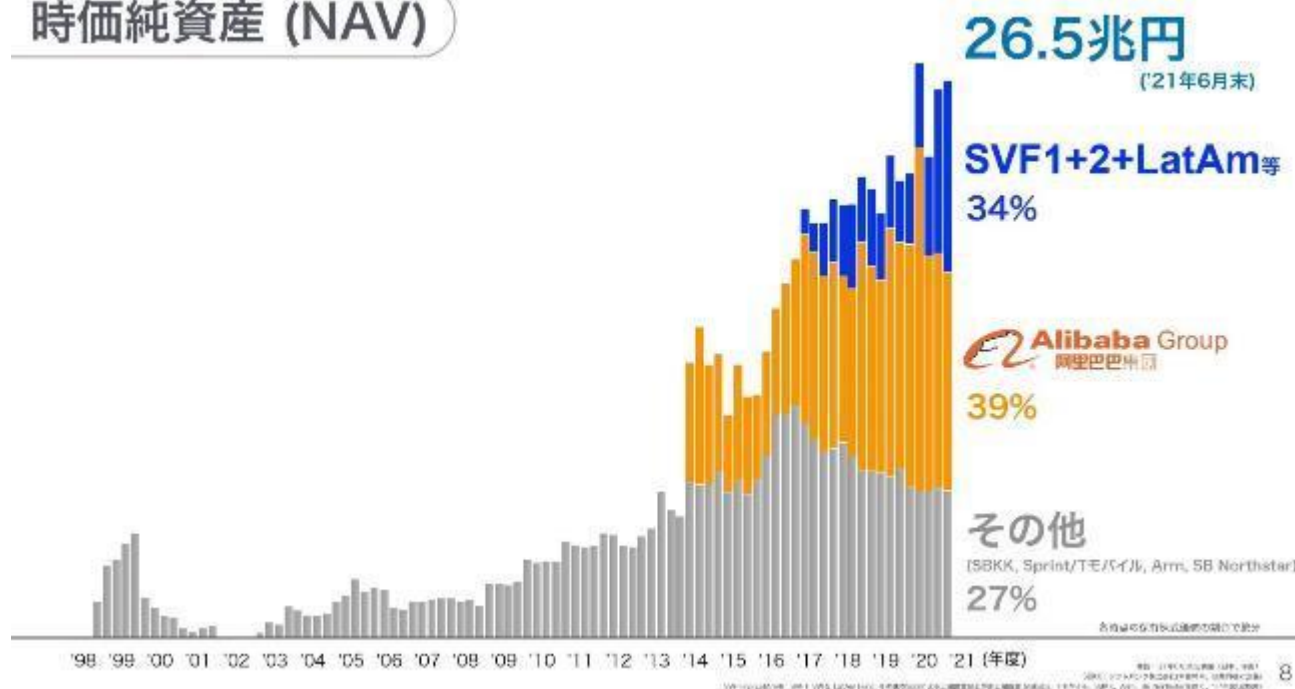
去年は5兆円ほど純利益を出したわけですが、5兆円の純利益を出した去年も、われわれとしては、この数字自体はあまり意味のないことだと。ちょうど3ヶ月前の決算発表で、年間で5兆円の純利益が出ましたが、純利益そのものはあんまり意味ないと。

むしろそれより大事なものは、時価純資産。われわれが資本家として保有している株式の現在の時価。そこから、われわれの純有利子負債、借入金を差し引いた額。これがわれわれにとっては一番大切な、成績をはかる物差しです。この、われわれの会社としての企業価値は、時価純資産つまりNAV で見るべきだと繰り返し申し上げています。

そのNAV が、26兆円であったということです。この26兆円、ちょうど1年ぐらい前に一番高いピークのところにありました。あれはアリババグループのアントファイナンスがちょうど上場する直前ということで、アリババの株が大きく上がった時期でした。

そのところを抜けば、それなりに順調に、その時期も含めても、デコボコはありますが、おおむね右肩上がりにきているということです。われわれの時価純資産と言っても、その中身はどうなんだろうということで、皆さんも知りたいと思います。

時価純資産 (NAV)



その中身を見ていただくと、各四半期ごとの NAV を表したのがこの棒グラフです。ブルーのところは、3、4年前から徐々に増えてきているのがご覧いただけると思います。これが「SVF」関連です。

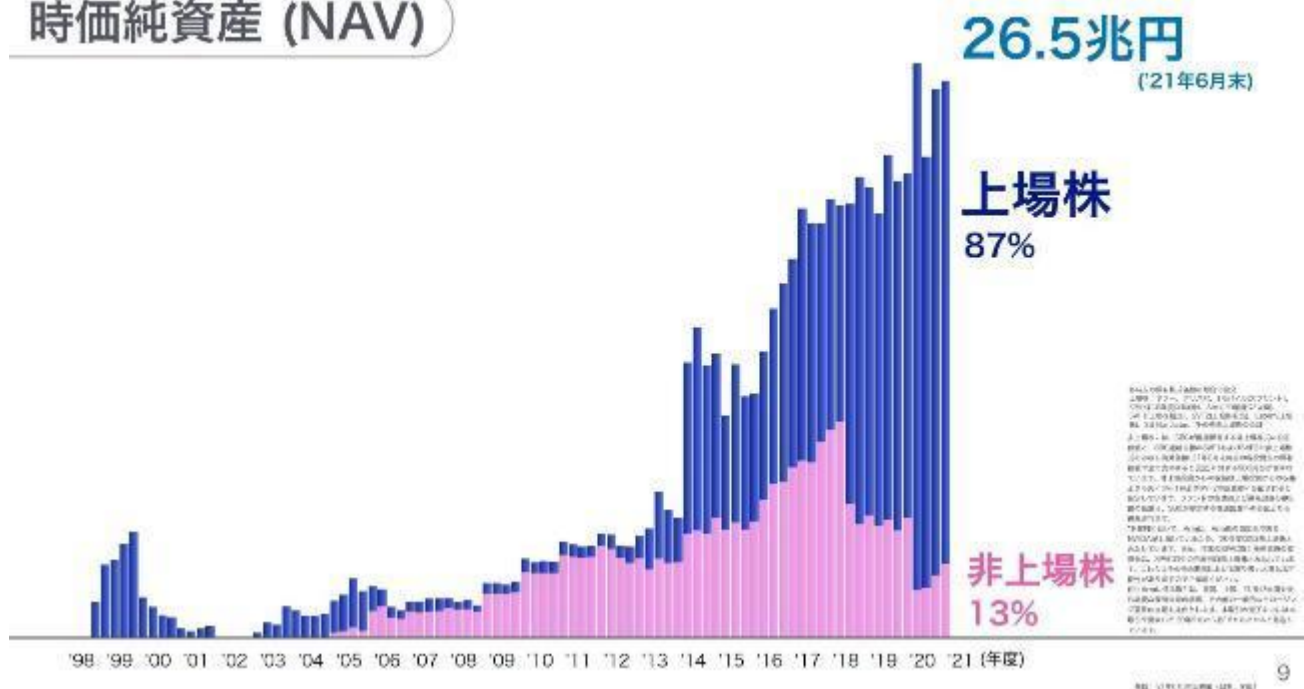
オレンジ色が「アリババ」です。アリババの株価が高いときは、全体の NAV の 6 割近くという時期もありましたので、アリババ一足打法とも言われていました。

「その他」の中に、われわれの保有しているその他全ての時価純資産、保有株式が含まれています。ですから、アリババとその他を足して、全体を俯瞰して見ると、この3、4年間、実は横ばいだと。それに上乗せされているのがブルーの「SVF」部分であったということです。

先ほど、SVF が累計して、徐々に価値が増えて、6兆7,000億ぐらいの利益が出ていると申し上げましたが、ちょうど SVF の部分が上乗せになってきたということです。もし SVF をやっていなければ、SBG はこの3、4年間、実は横ばいだったとも言えるかもしれません。時価純資産、NAV で見た場合の話です。

時価純資産と言っても、ご批判される方は、SBG が勝手に鉛筆舐め舐め、時価評価しているんでしょう、いろんなものが含まれていて、その価値のよりどころが、客観的価値ではないのではないかと時々ご批判をいただきます。

時価純資産 (NAV)



そこで、次のページを見ていただきたいのですが、われわれが持っている時価純資産の中で、上場株と未上場株を色分けすると、ピンクの部分が未上場株です。ご覧いただきますと、7、8年前は、ブルーの部分はほとんどなかったわけです。未上場のものばかりでした。未上場ですと、われわれが勝手に評価をします。

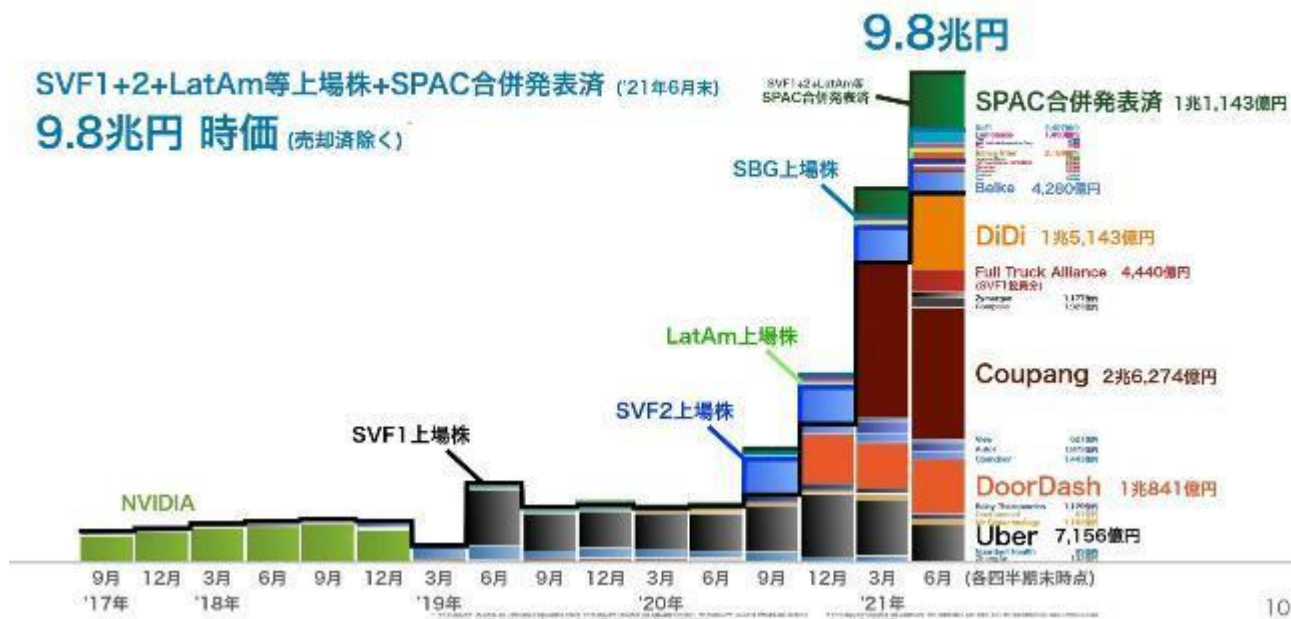
もちろん第三者の監査法人の方々などにきちっとした仕組みで評価を再チェックいただいているのですが、それでもピンクの部分は、さはさりながら、これは一つの見方ですねと、ご批判を受けるかもしれませんが、ブルーのところは全部上場関連でして、毎日時価が、世界中の投資家によって真剣勝負で株価がついている。われわれが勝手に付けている値段ではないということで、87%、90%近くが上場株として、毎日世界の投資家が客観的に付けている値段で決まっているということです。

SBGというのは、バランスシートを見ても、PLを見ても、その価値の評価が全くわからない。このように批判される方がいます。

でもそれは、世界中の投資家が株式市場で、毎日アマゾンだとか、グーグルだとか、トヨタだとか、いろんな会社の株価を投資家の皆さんが付けているわけですね。われわれSBGのNAVも、9割近くはこのように毎日、世界の投資家の方々が値段を洗い替えしている状況の中で、客観的についている物差しの価値だということを、ぜひご理解いただきたいと思います。

ですから、SBGのバランスシートを見てもわからないというのではなくて、これを見れば一目で分かるということだと、私はシンプルにそう思います。

SVF1+2+LatAm等 上場株+SPAC合併発表済投資先 時価 (売却済除く)

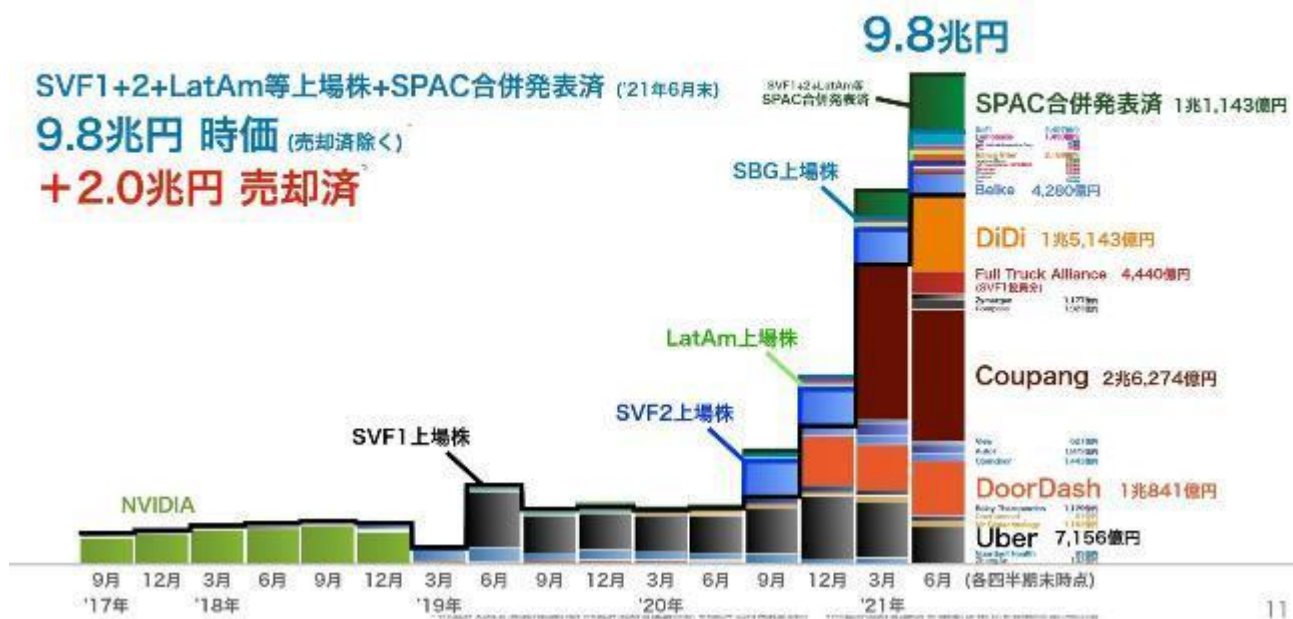


次に、SVF の部分ですが、SVF はもともと、ほぼ全て未上場の会社に投資しているわけですね。

ですから、SVF は、未上場の AI ユニコーンに投資をするわけですが、未上場で投資したものが半年、1年、2年、3年、4年と経つと、徐々に上場する。上場すると、これまた投資家からの客観的な株価がつくわけです。

SPAC との合併による上場が一部含まれていますが、それを含めて、われわれ SVF 関連で投資したものの価値が、約 9.8 兆円の上場株に生まれ変わったと。未上場株が上場株に生まれ変わったということです。この色分けは、われわれ SVF が保有している銘柄ごとの上場株式価値という、われわれが保有しているものの価値になります。

SVF1+2+LatAm等 上場株+SPAC合併発表済投資先 時価 (売却済除く)

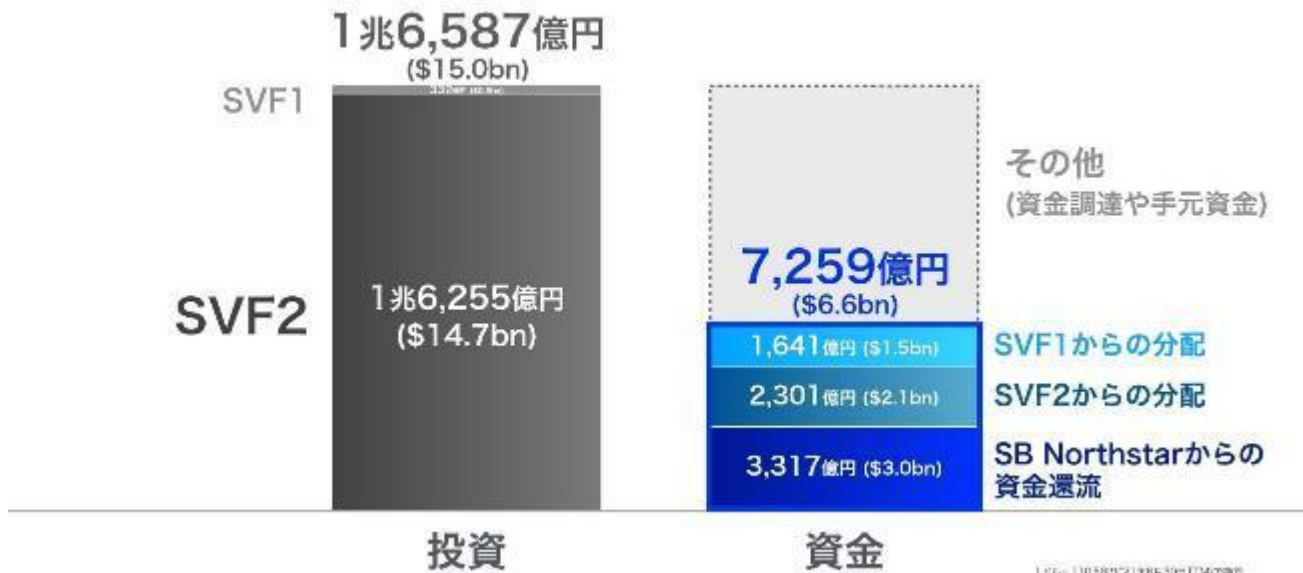


実際は、9.8兆円の時価に加えてすでに売却したものが2兆円あります。ですから、未上場企業に投資したものが上場株に変わって約12兆円になりましたと。その中から、2兆円はもうすでに売却をして、現金として手に入れて、外部の投資家、あるいはわれわれ自身に分配をして、また再投資に使っているということです。

ですから、SVFでいくら投資しても、それは紙の上の価値だと。売ってみなきゃ価値は手に入らないでしょと。これまたご批判をいただくケースがありますが、着実に、少しずつ一歩ずつ現金化をし、それを次の再投資に循環させていく。そういうエコシステムができつつある。

実際に12兆円近い上場株になって、その中から2兆円はもう現金化しましたということです。ですから、ちゃんと現金化、実現益もこのような形で出していっているということです。

投資資金 ('21年度Q1)



このSVF2のスタートのころ、SVF1はコミットメント総額の85%を使い切り、投資先への新規投資を終えました。1年半前、SVF2を始めるときは、SVF1の終わりの方で、先ほどグラフにありましたように、一番苦しい時期でありました。

そのころに、SVFはうまくいかないんじゃないかと多くの人が懸念していました。そしてSVF2スタートのところで、われわれは一生懸命勧誘したんですが、誰も乗ってくれなくて。結果、われわれ単独のお金で継続して、投資を続けるという形になりました。

今となって振り返ってみれば、入口は苦しかったんですが、結果的には、それでもちゃんと自分たちで回せるようになってきているということは、ある意味良かったのかなという気もしないわけではありませんが、少なくともこの21年度の第1四半期の3カ月、100%われわれの手金だけで、1.6兆円ほど投資を行いました。

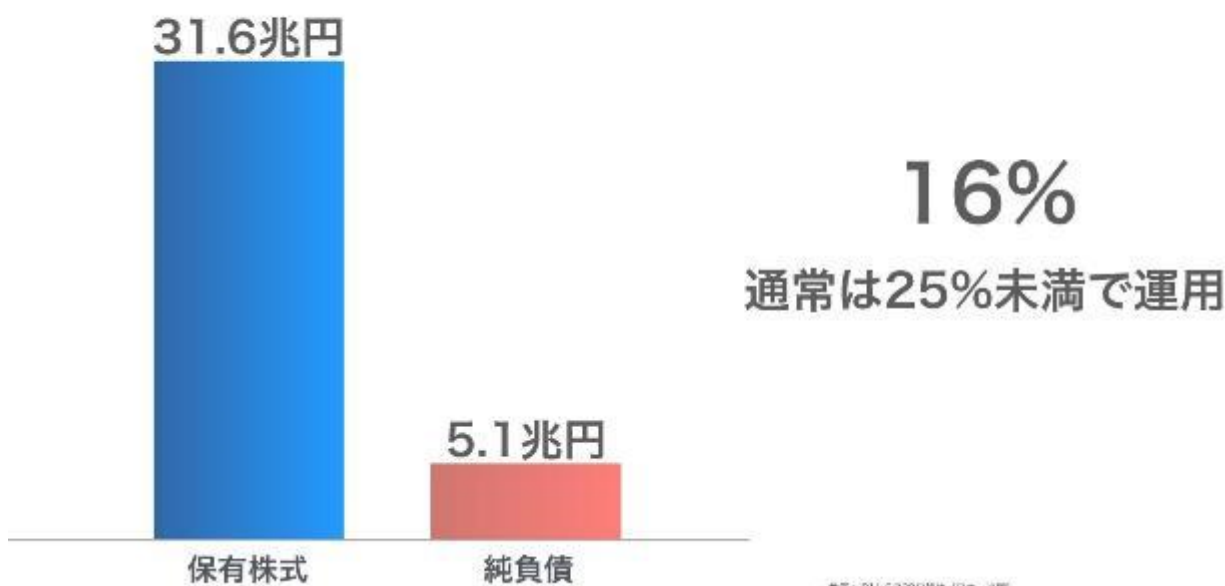
その1.6兆円のうちの約半分近く、これはSVF1、SVF2、そして上場株運用をしているSB Northstar（以下「ノーススター」）からの資金の分配、つまり投資の売却です。先ほど、2兆円ほど売却したという話をしましたが、外部の投資家に先に分配して、残りの部分などで、われわれが投資を続けています。

また、ノーススターは、アマゾンだとかフェイスブックだとか、グーグルだとか、こういうところの株も手元の余剰資金で運用していました。こちらも最初は赤字を出して苦しんだんですが、最近では利益が出るようになってきています。SBGの持分だけで累積で約2,000億、今回の四半期で確か利益が出たと思います。このノーススターで上場株を一時運用していた部分も最近は大いぶ少な

くして、その分は SVF2 の投下資本の方に振り替えている。あくまでも上場株の運用は、一時的な余ったお金の運用という位置づけでやっていたので、われわれの一番メインの、資本の投資活動である SVF の方に優先してお金を使っています。

ですから、このブルーのところは、われわれが保有している SVF1、2、そしてノーススターの売却したお金の配当ですね。受取配当から再投資したと。つまり資金の還流のエコシステムが徐々に機能し始めているということです。残りのお金は手元資金だとか、その他の資金調達で行ったということです。

LTV (純負債/保有株式)



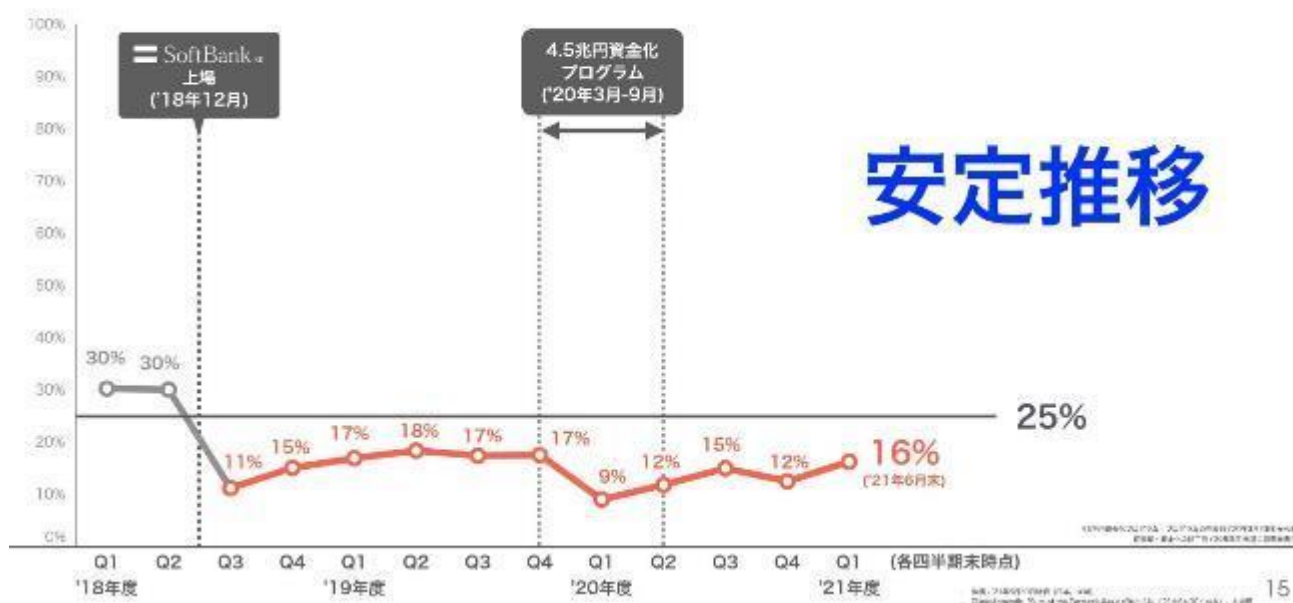
ということで、われわれが保有している株式の価値は 31.6 兆円。純有利子負債が 5.1 兆円。先ほどから時価純資産と申していますが、31.6 兆引く 5.1 兆の 26.5 兆円が時価純資産、NAV ですね。このブルーから赤を引いた部分、純有利子負債を引いた部分が NAV、時価純資産です。

毎回私、説明しているんですが、未だに、SBG は借金だらけだと、借金バンクとおっしゃる方がいますが、実際はわれわれが保有している株式価値に対して 16%の借入比率であると。ですから、われわれが保有している部分の 16%売却して借入をゼロにしようと思えば、実は 1、2 カ月でそのようなことも、その気になれば実行可能だということです。

現に昨年、4.5 兆円プログラムを発表して、実際に 4.5 兆をはるかに超える資金化を半年ぐらいで実行したわけですから。しかもその売却するときには、保有している株式の価値はほとんど減らさずに実行できたわけですから。その気になれば、いつでもできるということです。

われわれはこれを、規律のある、バランスのとれた攻めの投資、事業と申し上げていまして、バランスの取れたというのは、赤い部分がブルーの部分の25%を上回らないように、平常時で運用していきましょうと。一時的な異常時でも、35%を超えないようにということです。保有している財産の3割以上は負債を持たないようにというのが、われわれの財務規律で、内規として運用をしています。

LTV (純負債/保有株式)



過去どうだったかと言いますと、30%を超えていた時期はありました。しかし、特にこの2年以上、3年近くずっと十数%で、安全運転を続けているということです。25%を上回らないように、平常時いきたいと、われわれ25%を超えそうだと、超えたとなると、投資活動を少し控えて安全運転をします。このようなことで、われわれのバランスをしっかりと保っていきたいということです。

Vision Fund 1, 2 + LatAm Fund

301社 (投資委員会承認済で投資完了前の43社を含む)

SVF1 (92社)

SVF2 (161社)

LatAm (48社)



先ほど世界の未上場 AI 関連企業の約 1 割の資本家で、加重平均で投資先企業の約 20%の株式を持っているという話をしましたが、一体どのぐらいの会社を持ってるかというと、SVF1 で 92 社に投資しました。

これは、外部の投資家の資本も集めて投資したわけですね。そして、SVF2、そしてソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド（以下「LatAm ファンド」）は、もう全て、われわれの手金のみで投資をしています。ですからこうやって見てみると、SVF2 は始まったばかりですが、少なくとも会社数においてはもう SVF1 を大きく超えるところまで来て、全体の 3 分の 1 が SVF1 で、全体の 3 分の 2 の会社数は SVF2 と LatAm ファンドと。だいぶ分散化ができるようになったということです。

このように見ますと、どこか 1 つの会社に依存する状況ではなくて、だいぶリスク分散が図れるようになったと。ただ一つだけリスクを取っているのは AI 革命だと。AI を活用している会社にしか投資したくないのがわれわれの思いですから、AI がこけたら SBG もこけるということですね。

これは、インターネットこけたら GAF A もこけるのと一緒に、われわれはインターネットが必ず大きくなるのだと信じて、この二十数年間いたわけですが、実際にそうになりました。AI を活用する会社が、間違いなく増えるのだというのは、われわれの信念としてリスクを取っているんですが、会社数という意味で 300 社ぐらいに分散できました。

SVF1+2+LatAm等投資先 時価

(’21年7月末時点・売却済除く)



幅広い地域へ 資本を提供



17

地域はどうかというと、米国が全体の34%。これは、SVF関連で保有している株式の時価、先ほど10兆円近くはもう上場し、上場しているものは時価で、未上場のものも、われわれが公正価値をちゃんと検証して測ったもので、われわれが保有している投資先の時価、SVF関連で米国が全体の3分の1を占めていると。

次に多かったのが中国で、以前は米国と同じぐらいあったのですが、最近の比率はだいぶ少なくなってきて、23%。この21年度に入ってから、SVF2の中国比率はだいたい11%ぐらいまで減ってきています。SVF2のお金の配分先、新規の投資先というのは、中国は約11%になり、それ以外の部分が9割ということですね。SVF1、2、そしてLatAmファンドを累計してみても中国は今23%で、中国以外のアジアというのは韓国のクーポンが大きいですね。

その他にもクラブだとか、トコペディアとかいろんなものがありますが、実は中国以外のアジアの部分が、中国より大きいと。ヨーロッパも最近、急激に増えてきていますし、南米も増えているということで、世界のどこか1カ国に完全依存ということではなくて、かなりバランスよく分散できてきたのではないかなと思うわけですね。

SVF1+2+LatAm等投資先 時価

('21年7月末時点・売却済除く)



幅広い分野へ 資本を提供



18

次に、同じAIでも、セクターごとの偏りはどうかと言いますと、以前はウーバーだとか滴滴だとか、クラブだとか、ライドシェアの部分が非常に大きかったということですが、今や消費者サービス、そしてライドシェアが入っている交通、物流、最先端テクノロジー、不動産、金融と、だいぶバランスよくセクターも分散できてきたと。これが300社に分散されているということですね。

今まで、GAFaを中心として、インターネット関連の企業が世界のGDPをどのくらい革新したのか。GAFaの中でもグーグルだとかフェイスブックだとか、また、スナップチャットだとか、最近ではティックトックとかいろいろありますが、インターネットは何を革新したかという、二つの業界を主に革新したわけですね。

一つはメディアの広告産業。もう一つは小売産業です。広告というのは世界のGDPの約1%。小売産業は世界のGDPの約10%。小売産業の中でどのくらいがeコマースに置き換わったかという、と約10%なんですね。米国だとか、中国ではもうちょっと比率は大きいのですが、世界で見ると、小売が占めている世界のGDP、10%、その中の約10%がeコマースに置き換わったと。つまり10%かける10%は1%ですね。ということは世界のGDPの、1%の広告と1%のeコマース、これが、インターネット革命が従来の産業を置き換えた部分ですね。1%プラス1%が、今のGAFaを作ったと言っても過言ではないわけですがAIはどうかというと、残りの98%の産業とGDP、これを全部、今から置き換えていくのがAI革命だと、私は思っています。医療、交通、ロジスティ

クス、コンシューマサービス、いろいろありますね。これらを全部これから、AI が置き換えていくと。

残り 98%の GDP を AI が置き換えていく、そう考えると、AI のこの革命の価値は、ものすごい規模があると信じているわけです。



AI は全ての産業をこれから革新していく。フィンテックやエンターテインメントも含めて全ての産業を革新していくと、私は心から信じているわけです。

先ほどから、300 社に投資していると申し上げていますが、その中の 4 社、今日は事例を紹介したいと思います。

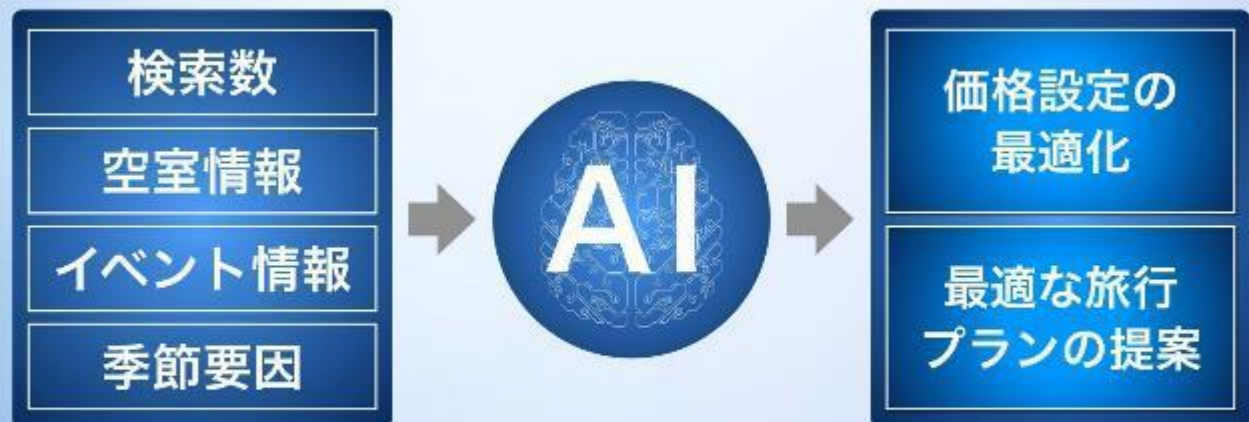


1 社目はヤノルジャですね。これは韓国を中心に、旅行業界のスーパーアプリとして急成長している会社です。



ホテルの予約宿泊、それから移動、さまざまな体験、飲食。これらをAIを使って、どんどん革新することで急成長している、韓国ナンバーワンの旅行プラットフォームです。ちょっとビデオを見ていただきたいと思います。

AI活用



ホテルもユーザーもメリットを享受

(出所) Yanolja 23

このヤノルジャの特筆すべき点は、AIを使って空室の情報やイベントのいろんな情報をもとに、価格設定を最適化し、お客様に最適な旅行プランの提案をしています。ホテル側もユーザー側も、両方にAIを使ってメリットを提供していると。

AI活用の効果



AIの活用で売上増加

(出所) Yanolja
(集計対象) 0.0875円(21年6月30日)以内で検索

24

特にこの1年間は、世界中コロナで大変苦しんでいまして、旅行業界はまさに一番打撃を受けた業界の一つですね。ところがこの3年間で、月間宿泊数が倍に伸びていますし、ユーザーの平均用額も1.4倍伸びている。



3年間の登録ユーザー数でいうと、直近の1年間は下がっているじゃないかと思うかもしれませんが、年間で見ると、3年で3倍伸びているということです。コロナがヒットした直後も、実は登録ユーザー数が伸び続けているということです。



登録ユーザー数は伸びているが、金額は減ったんじゃないかと思うかもしれませんが、実は金額もコンスタントに急成長を続けています。

もう世界中、旅行業界は本当に大変だと思うんですね。新型コロナの状況の中でも、言い訳抜きで急成長を続けている。これはAIを使って、ユーザー、ホテル、そして飲食側にメリットを提供し続けているから、実現できたんじゃないかと思うわけですね。

われわれが出資したときには、すでに、韓国の株式市場に上場直前の状態だったのですが、われわれが資本を参画し、世界にこれから打って出ていく以上は、場合によっては、アメリカの株式市場に上場することも含めて検討したらどうだと、われわれも資本を大きく投入したということです。

Klarna.

AI × フィンテック

クラーナ、こちらもすごいんですね。




ユーザー
9,000万人

加盟ブランド
25万超

導入店舗
8万店

取引数/日
200万回

グローバルで利用者が急拡大

ユーザー: 2021年12月時点でKlarnaアプリおよびウェブサイトを介して9,000万人。2021年12月1日の時点でKlarnaは、21万超の加盟店と25万超のブランドが加盟している。2021年12月の月間取引額は、21億米ドル。2021年12月の月間取引額は、21億米ドル。2021年12月の月間取引額は、21億米ドル。

ユーザー数がもうすでに 9,000 万人で、加盟ブランドが 25 万を超えていまして、8 万店舗を超えています。1 日当たりの取引回数が 200 万回。もう本当に急成長しているフィンテックの会社なんです。こちらもちょっとビデオを見ていただきたいと思います。

分割払いができるということですね。本当に簡単にできるんです。クレジットカードを持ってない人にも、ワンタイムカードをその場で発行するということですね。

クラナがクレジットリスクをAIで分析しながら、特に若い人、世界中でクレジットカードを持ってない人もたくさんいますよね。そういう人たちに、ワンタイムのクレジットカードをその場で発行し、買い物を即分割払い、あるいは後払いにできるサービスを提供しているのです。

特徴

- メールアドレス・郵便番号かんたん登録
- クレジットカード不要

即時払い

分割払い
(3回 or 4回 手数料なし)

後払い
(30日以内 手数料なし)

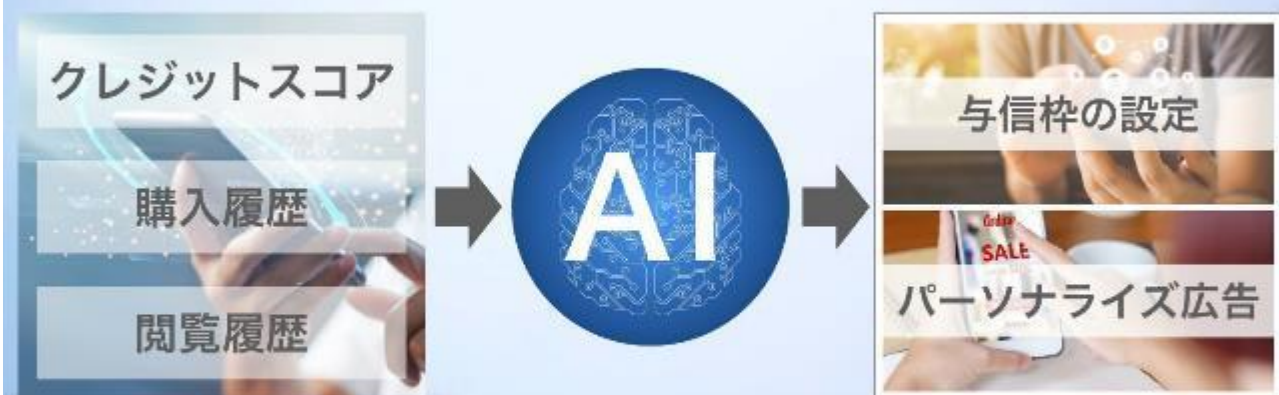
キャッシング

様々な決済方法をユーザーに提供

出元: Klarna 30

もちろん即時払いもできますし、分割払い、後払い、キャッシングという、いわゆる銀行業務に近いようなフィンテックですね。クレジットカードのような機能をワンタイムで、その場で提供する。1回使った人はリピート率が非常に高いんですね。

AI活用

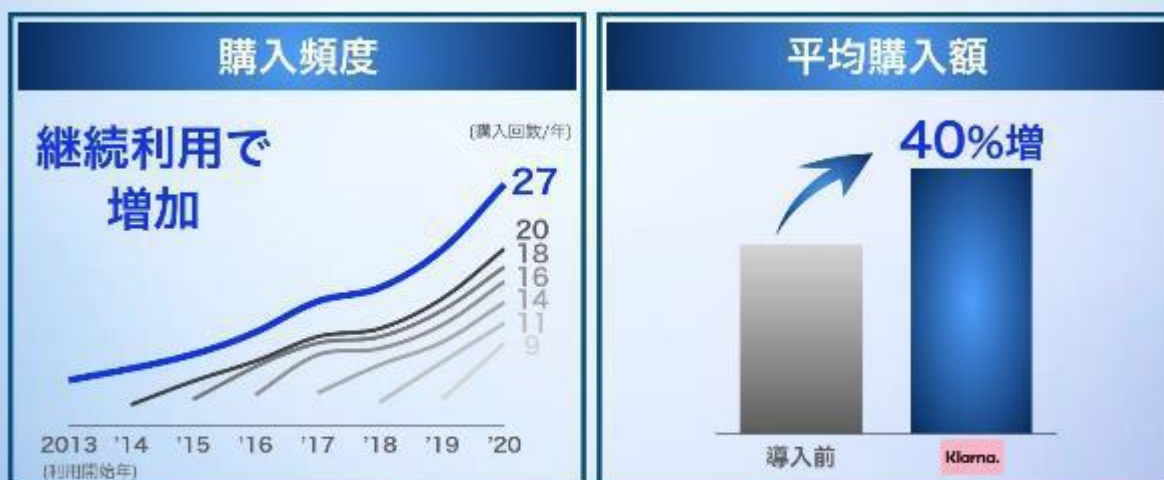


個人に最適化された買い物体験

出元: Klarna 31

これはAIを使わないと、その場でその人に信用を与えることは不可能ですよ。AIを使わずに、バンバン、ワンタイムクレジットカードみたいなものを発行したら、お金が戻ってこないということで大ごとになるわけですが、クレジットスコアをAIで徹底的にその場でリアルタイムに分析し、過去のいろんなデータとかをどんどん取りながら、また2回目、3回目、4回目と、リピート客がどんどん増えているんですね。2回目、3回目になると、クレジットのスコアがより貯まってきます。

AI活用の効果



購入頻度と購入額が大きく増加

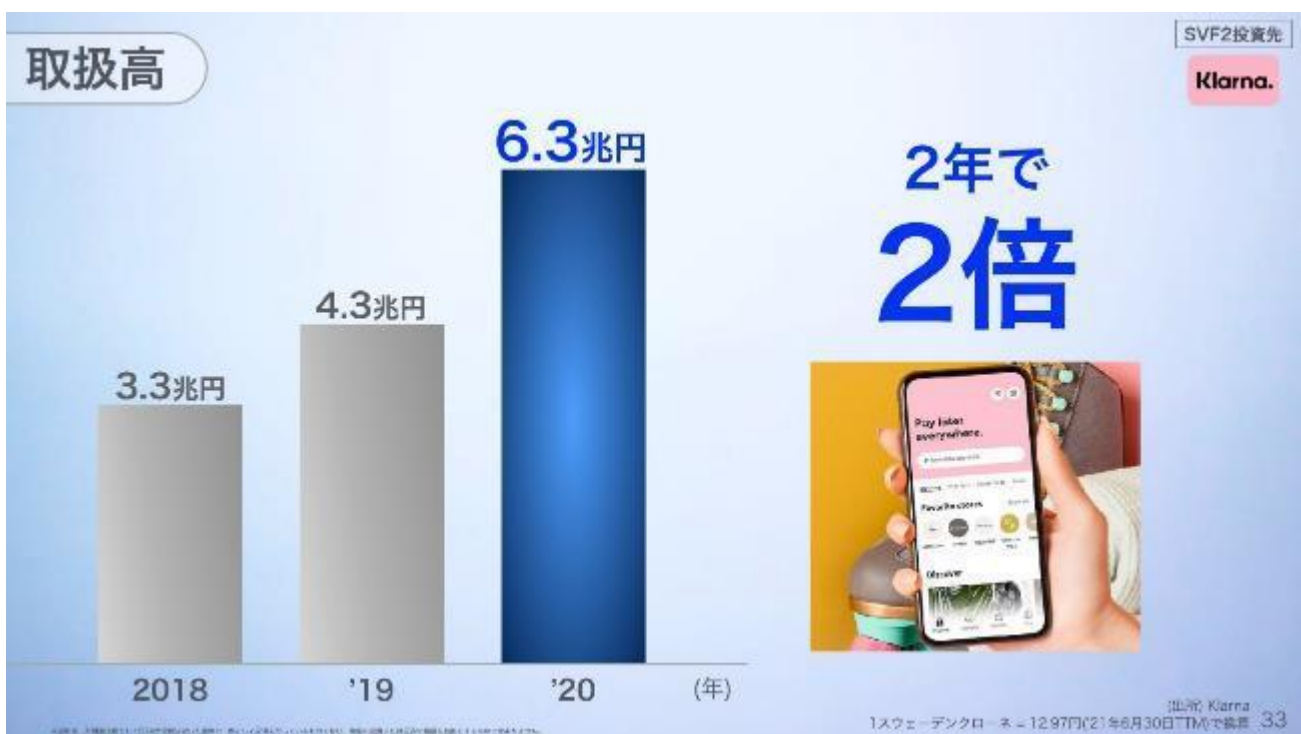
購入履歴・クレジットスコア等の個人データを基に、ユーザーの購買傾向を分析し、最適なクレジット枠を設定し、パーソナライズされた広告を提示し、リピート客を増やすことで、購入頻度と購入額が増加しています。

出元: Klarna 32

ということで、最初のころのユーザーは購入頻度が年間 27 回まで増えてきているんですね。新しく入った人は年間 9 回ぐらい。その 1 年ぐらい前に入った人は 11 回、14 回というように、古くから入っている人ほどリピート率がどんどん上がって、1 人当たり 27 回まできている。また、使えば使うほど、クラーナには AI のクレジットスコアがどんどん溜まって行って、焦げ付き率が減っていくことで、収益をどんどん稼げる。

また、ブランド側、お店側はどういうメリットがあるかというと、クラーナのメンバーが買い物をしてくれると平均購入金額が 1.4 倍になるということで、いろんなお店がオンラインで買物を提供するのに、クラーナと提携したいと。なぜならば、クラーナと提携し、クラーナのカードでの支払を受け取ることができるようにすれば、クラーナのメンバーの購入額が 1.4 倍に増えるということで、店舗側はもう大歓迎ですね。

ユーザー側も、その場でワンタイムのクレジットカードを発行してくれますので、ユーザー側も大変なメリットがあるということです。



急成長しており、今もう、取扱高が 6.3 兆円まできている。実はこのクラーナは、われわれもう何年も前から投資したくて、何年も担当者が交渉していた。特にこの 2~3 年は一生懸命交渉したのですが、もうお金いらなくなかなか投資を受けくれませんでした。やっと最近、創業者と直接掛け合って、われわれの資本を受け入れることになりました。大変楽しみにしている会社です。

AutoStore

AI × ロボット倉庫

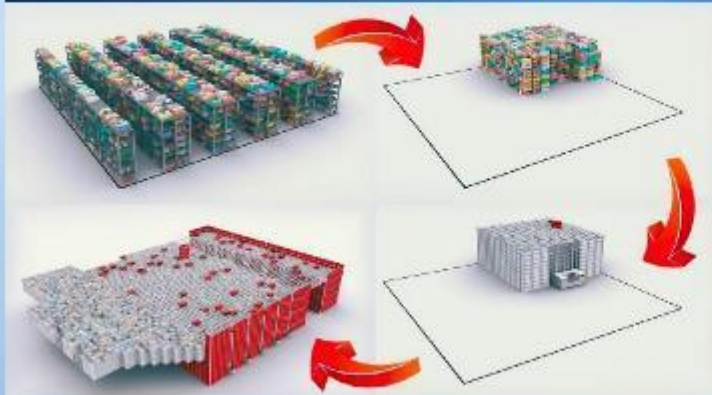
34

もう一つ、オートストア。こちらも見たいと思います。

孫：今まで、倉庫の中のロボットシステムというとアマゾンのキバとか、いっぱいありましたね。あれは平面の床をキバのロボットが走り回って棚を持ってくるわけですがオートストアは3次元で、横に移動するだけじゃなくて、下にも上下に棚を全部自動化して行く。

特徴

グリッド型ストレージ



- スペース活用率：90%
- 倉庫スペースが半分以下
- 自由度の高いレイアウト

従って、スペースの利用効率が一気に良くなって、平面だけではなくて縦の面までいけますから、面積効率が一気に良くなる。e コマースがどんどん伸びていますから今世界中で倉庫の床面積が足りない状況になっているんですが、不動産の物理的な場所効率が一気に良くなる。

人件費が今どんどん上がってきていますが、人件費よりも安くロボットが肩代わりしてくれる。レイアウトも大変自由にフレキシブルに、グリッドのアルミのパイプをレゴのように横に継ぎ足していくことで、倉庫の作業を止めることなくグリッドをどんどんどんどん横に増やしていける。

特徴SVF2投資先



AI制御によるロボット搬送とピッキング



- 配置とルートを最適化
- ピッキング精度：99.9%
- 搬出時間を大幅削減

出所 AutoStore 37

全部 AI で分析して、出荷頻度の高い品目ほど、ロボットに近い上の方の棚に置いて、全部 AI で分析した形で、場所の移動とかロボットの移動を最適化しているということです。

人件費が上がってきている中で、人件費よりもはるかに安く、はるかに早く、はるかに正確に、24 時間 365 日休みなく稼働できることで、実は急成長しています。

顧客



500社以上のグローバル企業が導入

21年7月時点
[北米] AutoStore

38

われわれもうすでに 40%、このオートストアの資本を持っている状況でして、もう利益がかなり出ていますので、近い将来上場ができると考えているわけです。すでに 500 社のお客様が、このオートストアを活用しているということですね。アパレル、家電、食品と、さまざまな業界の世界中の会社、約 500 社が導入済み。

グローバル展開

導入件数 1-3 4-15 15-50 >50



パートナー



38か国の700か所で導入済み

21年7月時点
[北米] AutoStore

39

ですから、新しいこういうシステム、理論的にはうまくいくけど、本当に大丈夫かと。理論的にはいいけど、本当にコストダウンできるのかと、まだ開発段階では疑わしいものもいろいろありますが、オートストアはもうすでに実績が出ていて、38カ国の700カ所以上でこのロボット倉庫を導入済みと。倍々ゲームで売上も利益も今伸びている急成長の会社です。われわれ非常に楽しみにしている会社ですね。

先ほど、われわれがSVFで投資してる会社の90%近くはまだ利益を出してない会社だと申し上げましたが、このオートストアはすでに利益がどんどん出ているという会社です。



次に、インドのフードデリバリー。われわれ、アメリカのフードデリバリーのドアダッシュで投資に対する大きな利益を得ました。急成長していますが、ウーバーイーツと、ドアダッシュ、両方もわれわれSVFのファミリーカンパニーで競争していますが、インドのドアダッシュ、あるいはウーバーイーツに相当するのが、スウィギーです。

インドでは、スウィギーとゾマト、の2社が、だいたい50:50ぐらいのマーケットシェアで競合しているのですが、われわれはその片方のスウィギーに大きく資本を投入することになりました。



インド最大級デリバリープラットフォーム

インド最大級のデリバリープラットフォームですが、こちらちょっとビデオを見ていただきたいと思います。

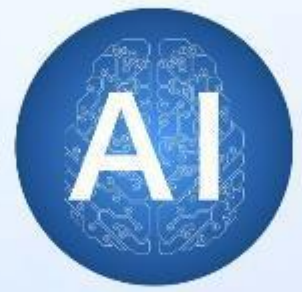
アクティブユーザー (月間) 2,000万人超	登録店舗数 12.5万店超	日次オーダー数 150万件	ドライバー数 20万人超

インドで幅広いデリバリーサービスを提供

アクティブユーザーが2,000万人。登録店舗数が12.5万。1日当たりのオーダー数が150万件。ドライバーの数も20万人を超えている会社です。急成長しています。最近は食べ物だけではなく、日用品のデリバリーも開始しています。



AI活用



高い効率性と収益性を実現

こちらでも AI を使って配車の効率化だとか、お客様へのレコメンドをしています。「あなたこういうのを今日食べたいんじゃないですか」、「今こういうのがおいしいですよ」とかね。「今、お買い得ですよ」ということを、ユーザーの今までの購買履歴に応じて、いろんなキャンペーンのレストランフードなんかを、時間帯だとか曜日だとかイベントだとか、そういうものを AI で全部分析しながら、いろんなレコメンドができていているということです。



AI活用効果

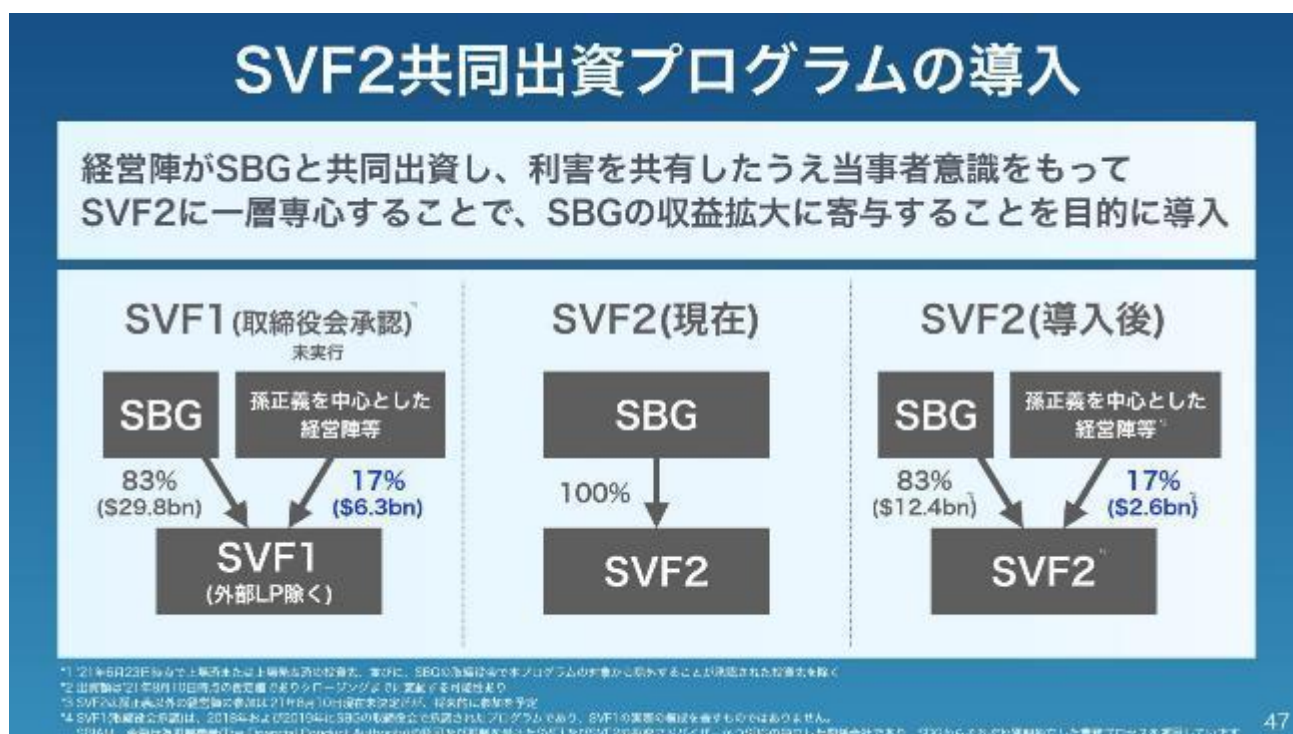


オーダー件数と売上が急成長

1年間でオーダーの件数も2.5倍、売上も2.8倍と、急成長しています。2社が半々ぐらいでマーケットシェアを争っているのですが、片っぽがつい最近インドで上場して、株価も絶好調14ビリオン、1.5兆円ぐらいの時価総額になっていますが、われわれはスウィギーに対して4,000~5,000億円ぐらいの投資ということになりましたので、近い将来、こちらも上場すれば十分な利益が得られるんじゃないかと、期待しているところです。

ということで、SVF、大変うまく順調に伸びつつあるのですが、最近は、6月末を過ぎた後に、中国の問題が出てきました。滴滴が上場した直後でしたし、フル・トラック・アライアンス、こちらでも上場した直後でしたね。その後、中国の株式市場はハイテク株にとりましては、アリババもテンセントも百度も美团も、その他も皆、中国のハイテク株というのは、今、受難のときであります。長い目で見れば、どこかでもう一度きちんとバランスを取り直して、業績は伸び続けていますから、株価においてもまた持ち直してくると、私は信じています。

いいとき、悪いとき、いろいろあります。いろいろありますが、いいときも悪いときも、私の信念は一切変わらない。AI革命は必ず、これから10年、20年、続けてどんどん革新していくと信じている。そう信じている中で、私も含めて、私を中心に経営陣はしっかりと自らリスクを取って、今後の投資活動を続けていきたいと考えています。



実は、SVF1のときに、SBGが投資するのと同じく、私を中心とした経営陣も共同出資してリスクを取って、投資活動を行っていったと決めて、取締役会の承認も得ていました。

そのときの共同出資比率は 17%ほど、経営陣として私を中心として行うということで、一旦役員会の承認を得ていました。しかし、実際に実行する直前で SVF は大変苦しい状況になりましたし、SBG の株価も下がって、私も貧乏になって、一緒に資本を投入しよう、リスクを取ろうと言っていた経営陣も全員、もうリスク取れないということで全員降りて、実際には実行に至る直前でこのプログラムが一旦棚上げになってしまいました。

皆さんもご存知のように、ちょうど 1 年ちょっと前は、SBG の株価はどん底でありまして、私自身も、担保に入れている株式の価値がドーンと下がりましたので、大変苦しい状況にあって。実際は、実行未遂で終わったのですが、SVF2、今だいぶ落ち着いてきましたし、これから中国の問題を含めて、いろんなリスクはまだまだ波乱万丈あるかと思いますが、今度こそ不転で、私自身もしっかりとリスクを取って共同出資を行いたいと、先日役員会で、私は出席しないで残りの役員の方で議論していただいて、SVF1 のときにやろうとしていたプログラムをもう一度、SVF2 において、今度こそしっかりと実行していくことで、承認を得ることができました。

従って、同じく約 17%。前は私以外の経営陣全員降りちゃって、私は財産だいぶ減って苦しかったのですが、実行するつもりでは、実はいたんですね。ただ、残り全員降りてプログラムそのものがもう成り立たなくなったので、実行未遂になったんですが、今回一つだけ違うのは、この 17%相当の共同出資は、まず一旦私個人が全部、全額リスクを取る。一旦私がリスクを取った上で、残りの経営陣には、私が取ったリスクの中から分け与えていくと。分け与えるプログラムは、残りの経営陣のリスクができるだけないように。いくらリスクを取ってもらおうとは思っていますが私は 100%、全面的なリスクをまず代表して会社に対してコミットする形で、そのようなプログラムでいきたいということです。

通常、ベンチャーキャピタルの投資ファンドというとならば 20%から 30%の成功報酬がマネジメント、経営陣に入ります。われわれ、SVF、SBG では、僕を中心とした経営陣は、そういうリスクなしの投資インセンティブというのは 1 円もいただいてない。その代わりにわれわれは、リスクを取って共同出資という形で、リスクとリターンを得るというプログラムです。

ですから、私としてはぜひ、リスクをとりながら経営陣としてやっていきたい。将来的には、私の後継者の経営陣の皆さんも、似たようなプログラムで何がしか、リスクをある程度取りながらリターンを得る形で、これを徐々にバージョンアップとかしながら、いろんな経験値で学びながら、こういう仕組みを、SBG の経営の文化として残していきたいと考えているわけです。



ということで、以上が今日の決算発表ですが、結論を再度確認したいと思います。

産業革命において、発明家と資本家、両方がリスクを取ってビジョンを共有して、未来を創りにいったように、AI 革命において、世界中の AI 起業家、300 社の起業家の皆さんとわれわれ、資本家としての SBG、こちらと一緒にビジョンを共有して未来を創ることで、AI 革命を実現させていきたい。

その規模は、AI 関連企業の約 10%、世界の 10%の資本をわれわれが出す形で進んでいる。市場規模が大きくなれば、いつまでも 10%のシェアが取れるかどうかはわかりませんが、少なくともこの 4 年間、新しい革命における資本家としての位置づけとしては、フルスイングしている状況ではないかと思っています。

しっかりとリスクを取って、堂々とこの分野に駒を進めていきたい。AI 革命は始まったばかりだと、心から信じて、不退転でこれに取り組んでいきたい。なぜならば、われわれは情報革命で人々を幸せにしたい。そういう未来を創りたいと心の底から思っているからです。



これからもしっかりと頑張っていきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

IMPORTANT INFORMATION

Disclaimers

This presentation provides relevant information about SoftBank Group Corp. (“SBG”) and its subsidiaries (together with SBG, the “Company”) and its affiliates (together with the Company, the “Group”) and does not constitute or form any solicitation of investment including any offer to buy or subscribe for any securities in any jurisdiction.

This presentation contains forward-looking statements, beliefs or opinions regarding the Group, such as statements about the Group’s future business, future position and results of operations, including estimates, forecasts, targets and plans for the Group. Without limitation, forward-looking statements often include the words such as “targets”, “plans”, “believes”, “hopes”, “continues”, “expects”, “aims”, “intends”, “will”, “may”, “should”, “would”, “could” “anticipates”, “estimates”, “projects” or words or terms of similar substance or the negative thereof. Any forward-looking statements in this presentation are based on the current assumptions and beliefs of the Group in light of the information currently available to it as of the date hereof. Such forward-looking statements do not represent any guarantee by any member of the Group or its management of future performance and involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, including but not limited to: the success of the Group’s business model; the Group’s ability to procure funding and the effect of its funding arrangements; key person risks relating to the management team of SBG; risks relating to and affecting the Group’s investment activities; risks relating to SB Fund (defined as below), its investments, investors and investees; risks relating to SoftBank Corp. and the success of its business; risks relating to law, regulation and regulatory regimes; risks relating to intellectual property; litigation; and other factors, any of which may cause the Group’s actual results, performance, achievements or financial position to be materially different from any future results, performance, achievements or financial position expressed or implied by such forward-looking statements. For more information on these and other factors which may affect the Group’s results, performance, achievements, or financial position, see “Risk Factors” on SBG’s website at https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor. None of the Group nor its management gives any assurances that the expectations expressed in these forward-looking statements will turn out to be correct, and actual results, performance, achievements or financial position could materially differ from expectations. Persons viewing

this presentation should not place undue reliance on forward looking statements. The Company undertakes no obligation to update any of the forward-looking statements contained in this presentation or any other forward-looking statements the Company may make. Past performance is not an indicator of future results and the results of the Group in this presentation may not be indicative of, and are not an estimate, forecast or projection of the Group's future results.

The Company does not guarantee the accuracy or completeness of information in this presentation regarding companies (including, but not limited to, those in which SB Funds have invested) other than the Group which has been quoted from public and other sources.

Regarding Trademarks

Names of companies, products and services that appear in this presentation are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Important Notice – Trading of SBG Common Stock, Disclaimer Regarding Unsponsored American Depository Receipts.

SBG encourages anyone interested in buying or selling its common stock to do so on the Tokyo Stock Exchange, which is where its common stock is listed and primarily trades. SBG's disclosures are not intended to facilitate trades in, and should not be relied on for decisions to trade, unsponsored American Depository Receipts ("ADRs").

SBG has not and does not participate in, support, encourage, or otherwise consent to the creation of any unsponsored ADR programs or the issuance or trading of any ADRs issued thereunder in respect of its common stock. SBG does not represent to any ADR holder, bank or depository institution, nor should any such person or entity form the belief, that (i) SBG has any reporting obligations within the meaning of the U.S. Securities Exchange Act of 1934 ("Exchange Act") or (ii) SBG's website will contain on an ongoing basis all information necessary for SBG to maintain an exemption from registering its common stock under the Exchange Act pursuant to Rule 12g3-2(b) thereunder.

To the maximum extent permitted by applicable law, SBG and the Group disclaim any responsibility or liability to ADR holders, banks, depository institutions, or any other entities or individuals in connection with any unsponsored ADRs representing its common stock.

The above disclaimers apply with equal force to the securities of any of the Group which are or may in the future be the subject of unsponsored ADR programs, such as SoftBank Corp. or Z Holdings Corporation.

Notice regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in any fund managed by a subsidiary of SBG, including SB Investment Advisers (UK) Ltd. (“SBIA”), SBLA Advisers Corp. (“SBLA”) and any of their respective affiliates (collectively, the “SB Fund Managers” and each an “SB Fund Manager”) (such funds together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle collectively, the “SB Funds” and each an “SB Fund”). For the avoidance of doubt, the SB Funds include, among other funds, SoftBank Vision Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund I” or “SVF1”), and SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund II” or “SVF2”), which are managed by SBIA and its affiliates, SoftBank Latin America Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “SoftBank Latin America Fund” or “LatAm Fund”), which is managed by SBLA and its affiliates.

None of the SB Funds (including the Vision Fund I, Vision Fund II and SoftBank Latin America Fund), the SB Fund Managers (including SBIA and SBLA), any successor or future fund managed by an SB Fund Manager, SBG or their respective affiliates makes any representation or warranty, express or implied, as to the accuracy or completeness of the information contained herein and nothing contained herein should be relied upon as a promise or representation as to past or future performance of the SB Funds or any other entity referenced

in this presentation, or future performance of any successor or the future fund managed by an SB Fund Manager.

Information relating to the performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation has been included for background purposes only and should not be considered an indication of the future performance of the relevant SB Fund, any other entity referenced in this presentation or any future fund managed by an SB Fund Manager. References to any specific investments of an SB Fund, to the extent included therein, are presented to illustrate the relevant SB Fund Manager's investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of any particular investment or security. The investment performance of individual investments of an SB Fund may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described in this presentation do not represent all of the investments made by the relevant SB Fund Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed therein were or will be profitable.

The performance of an SB Fund in this presentation is based on unrealized valuations of portfolio investments. Valuations of unrealized investments are based on assumptions and factors (including, for example, as of the date of the valuation, average multiples of comparable companies, and other considerations) that the relevant SB Fund Manager believes are reasonable under the circumstances relating to each particular investment. However, there can be no assurance that unrealized investments will be realized at the valuations indicated in this presentation or used to calculate the returns contained therein, and transaction costs connected with such realizations remain unknown and, therefore, are not factored into such calculations. Estimates of unrealized value are subject to numerous variables that change over time. The actual realized returns on the relevant SB Fund's unrealized investments will depend on, among other factors, future operating results, the value of the assets and market conditions at the time of disposition, any related transaction costs and the timing and manner of sale, all of which may differ from the assumptions and circumstances on which the relevant SB Fund Manager's valuations are based.

Past performance is not necessarily indicative of future results. The performance of an SB Fund or any future fund managed by an SB Fund Manager may be materially lower than the performance information presented in this presentation. There can be no assurance that each

SB Fund or any future fund managed by the relevant SB Fund Manager will achieve comparable results as those presented therein.

The actual realized return on unrealized investments by an SB Fund may differ materially from the performance information indicated in this presentation. No assumption should be made that investments identified and discussed in this presentation were or will be profitable, or that investments made in the future will be comparable in quality or performance to the investments described therein.

Third-party logos and vendor information included in this presentation are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that an SB Fund Manager, an SB Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by an SB Fund Manager or SBG will work with any of the firms or businesses whose logos are included in this presentation in the future.

SBIA and SBLA manage separate and independent operations and processes from each other and those of SBG and any SB Funds managed by SBIA or SBLA are solely managed by SBIA or SBLA respectively.

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、

当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」

https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factorをご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測又は予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）、SBLA Advisers Corp.（以下「SBLA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、それぞれ SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」または「SVF1」）と SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビ

ジョン・ファンド2」または「SVF2」)を含み、また、SBLA とその関係会社によって運用されている SoftBank Latin America Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、リーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」または「LatAm Fund」)を含みます。

SB ファンド (ビジョン・ファンド1 及びビジョン・ファンド2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社 (SBIA を含む)、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因 (例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。) に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、

いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、本資料に記載されるパフォーマンス情報と著しく異なる可能性があります。本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むものである、又は、将来行われる投資が本資料に説明される投資と質又はパフォーマンスの点で同等であると仮定すべきではありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBIA 及び SBLA は、SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを運用しており、ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 を含む SBIA によって運営されている SB ファンドは SBIA 単独で運営され、またラテンアメリカ・ファンドは SBLA 単独で運営されています。